

| 筒井康隆バイオグラフィ | | 『漂流 本から本へ』中での言及作品 |
|-------------|--------------------|--|
| 1934 昭和9年 | 室戸台風の直後に誕生 | |
| ↓ | | |
| 1940 昭和15年 | カトリック聖母園 | 田河水泡『のらくろ』 |
| 1941 昭和16年 | 南田辺国民学校 | 江戸川亂歩『少年探偵団』、弓館芳夫『西遊記』、ボアゴベ『鐵假面』 |
| 1942 昭和17年 | 幼少年期 | 謝花凡太郎・画『勇士イリヤ』 |
| 1943 昭和18年 | | 坪田譲二『子供の四季』 |
| 1944 昭和19年 | 千里第二国民学校 | 江戸川亂歩『孤島の鬼』、デュマ『モンテ・クリスト伯』 |
| 1945 昭和20年 | | 夏目漱石『吾輩は猫である』、メリメ『マテオ・ファルコーネ』 |
| 1946 昭和21年 | 中大江小学校 | 手塚治虫『ロスト・ワールド(前世紀)』、マン『ブッデンブローカー家』、サバチニ『スカラムッシュ』 |
| 1947 昭和22年 | 東第一中学校 | ウェルズ『宇宙戦争』 |
| 1948 昭和23年 | 児童劇団 | 宮沢賢治『風の又三郎』、パイコフ『牝虎』、アプトン・シンクレア『人われを大工と呼ぶ』→『ジーザス・クライスト・トリックスター』に影響 |
| 1949 昭和24年 | | イブセン『ペール・ギュント』、イバーニェス『地中海』 |
| 1950 昭和25年 | 春日丘高校 | 演劇青年時代 |
| 1951 昭和26年 | | アルツイバーシェフ『ザニン』、ショーベンハウエル『随想録』、ケッラアマン「トンネル」、チャーホフ『結婚申込』 |
| 1952 昭和27年 | 同志社大学・関西芸術アカデミー | デビュー前夜 |
| 1953 昭和28年 | | ズウデルマン『猫橋・憂愁夫人』、クリスティ『そして誰もいなくなった』 |
| 1954 昭和29年 | 青猫座 | フロイド『精神分析入門』、井伏鱒二『山椒魚』、メニンジャー『おのれに背くもの』、横光利一『機械』 |
| 1955 昭和30年 | | |
| 1956 昭和31年 | | 飯沢匡『北京の幽霊』、高良武久『性格学』、福田恒存『壘壘奪取』、ヘミングウェイ『日はまた昇る』、ハメット『赤い収獲』、カフカ『審判』 |
| 1957 昭和32年 | 乃村工務社入社 | カント『判断力批判』 |
| 1958 昭和33年 | | |
| 1959 昭和34年 | SFマガジン創刊 | ファイニイ『盗まれた街』、三島由紀夫『禁色』 |
| 1960 昭和35年 | 家族同人誌NULL創刊 | デビュー前夜 |
| 1961 昭和36年 | ヌル・スタジオ設立 | メイラー『裸者と死者』→『馬の首風雲録』に影響 |
| 1962 昭和37年 | ハヤカワ・SFコンテスト選外佳作 | |
| 1963 昭和38年 | | ディック『宇宙の眼』、ブラウン『発狂した宇宙』 |
| 1964 昭和39年 | 第3回日本SF大会DAICON主催 | シェクリイ『人間の手がまだ触れない』 |
| 1965 昭和40年 | 結婚、専業作家、東京に転居 | |
| 1966 昭和41年 | | セリヌヌ『夜の果ての旅』、プーアスティン『幻影の時代』→『東海道戦争』に影響 |
| 1967 昭和42年 | 「ベトナム観光公社」直木賞候補 | 生島治郎『黄土の奔流』、リースマン『孤独な群衆』、川端康成『片腕』 |
| 1968 昭和43年 | 作家になる | オールディス『地球の長い午後』→『ボルノ惑星のサルモネラ人間』に影響 |
| 1969 昭和44年 | | つげ義春『ねじ式』、ピアス『アウル・クレーク橋の一事件』、東海林さだお『トコトントン物語』 |
| 1970 昭和45年 | | |
| 1971 昭和46年 | | ローレンツ『攻撃』、阿佐田哲也『麻雀放浪記』→『俗物図鑑』に影響 |
| 1972 昭和47年 | 神戸に転居 | ル・クレジオ『調書』、新田次郎『八甲田山死の彷徨』 |
| 1973 昭和48年 | ネオ・ヌル発足 | |
| 1974 昭和49年 | | |
| 1975 昭和50年 | 第14回日本SF大会SHINCON主 | |
| 1976 昭和51年 | | 山田風太郎『幻燈辻馬車』 |
| 1977 昭和52年 | | コルタサル『遊戯の終り』 |
| 1978 昭和53年 | 『虚人たち』泉鏡花賞 | |
| 1979 昭和54年 | | 大江健三郎『同時代ゲーム』、トゥルニエ『赤い小人』 |
| 1980 昭和55年 | | |
| 1981 昭和56年 | 新たな飛躍 | |
| 1982 昭和57年 | | |
| 1983 昭和58年 | | マルケス『族長の秋』 |
| 1984 昭和59年 | | フライ『批評の解剖』、ドノン『夜のみだらな鳥』 |
| 1985 昭和60年 | | イーグルトン『文学とは何か』、ディケンズ『荒涼館』→『バブリカ』に影響 |
| 1986 昭和61年 | | |
| 1987 昭和62年 | 『夢の木坂分岐点』谷崎潤一郎賞 | |
| 1988 昭和63年 | | |
| 1989 平成元年 | | |
| 1990 平成2年 | | |
| 1991 平成3年 | | |
| 1992 平成4年 | | |
| 1993 平成5年 | 断筆宣言 | 丸谷オ一『女ざかり』 |
| 1994 平成6年 | | |
| 1995 平成7年 | 阪神大震災被災 | |
| 1996 平成8年 | | |
| 1997 平成9年 | 執筆再開 | |
| 1998 平成10年 | 『わたしのグランバ』読売文学賞 | |
| 1999 平成11年 | | |
| 2000 平成12年 | | |
| 2001 平成13年 | | |
| 2002 平成14年 | 紫綬褒章 | |
| ↓ | | |
| 2010 平成22年 | 菊池寛賞 | |
| 2011 平成23年 | | |

ハイデガー『存在と時間』（連載最終回で取り上げ。特に時期の明記はない）